

第4回 山口県 新たな時代の人づくり会議 議事録

日時：2021年2月16日（火）15:30～17:00

場所：WEB会議（県庁共用第一会議室）

出席者（構成員）：村岡副知事、楠正夫委員、吉村猛委員、岡正朗委員、
加登田恵子委員、原田尚委員、浅原司委員（欠席：三宅紹宣委員）

出席者（事務局）：総合企画部長（司会）、総合企画部次長、総合企画部審議監
政策企画課長、教育政策課長

<会議の概要>

【村岡知事】

本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただきありがとうございます。

コロナ禍の中で、こうしてWebを通じて開催とさせていただくこととなりましたが、御協力をいただきましたことに、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございます。

時代は今、AIやIoTなどの急速な技術革新により、Society5.0と言われる超スマート社会が到来しつつあるところです。

また、現在の新型コロナウイルス感染症の拡大は、日々の生活、また、社会経済活動に大きな影響を及ぼしています。コロナ禍を契機に、人々の行動様式、価値観、こうしたことが大きく変化をし、時代が大きな変革のときを迎えていると受けとめています。

こうしたように、今我々が暮らす時代は、従来の延長線上にはない大きな変化の途上であり、将来の予測が困難な状況となっています。そうした中であって、県政が目指す「活力みなぎる山口県」を実現していくためには、本県の将来を担いそして未来を切り開いていく若者たちが困難な課題に果敢に挑戦する、そしてそれを乗り越えていく、こうした力を備えていくことができるように、新たな時代に対応した人づくりに取り組んでいかなければなりません。

このため、私はこれまで3回に渡り、皆様方から、失敗を恐れずに挑戦していく、挑戦を続ける力、また、多様な価値感、豊かな感性など、これからの時代を担う人材に必要なとされる資質能力、そして成すべき取組などにつきまして様々な御意見を伺いながら、新たな時代の人づくり推進方針の策定を進めて、この度、最終案を取りまとめたところです。

今後この推進方針に基づき、人づくりの全体を体系的、そして中長期的な観点に立って、関係部局一体となって、本県の新たな時代を担う若者の育成に向けた取組を推進していくこととしています。

そしてこれを円滑に進めるため、来年度には庁内を横断する組織となる「新たな時代の人づくり推進室」、これを新たに設けることにしています。更に今日、先程、令和3年度、来年度の予算案につきまして発表しました。その中では外国人メンターと英語でコミュニケーションをとりながら、グローバルな視点と、一方でローカルな視点と、この両方を持ったグローバルリーダーを育成する取組、また、デジタル社会の到来を見据えて、デジタル人材

やデータサイエンティストを育成する取組を盛り込むなど、人づくり推進方針に沿った取組を本格化していくこととしています。

私は、人づくりの目指すべき方向性を学校や地域、企業、団体等と共有して連携を図りながら、学びへの意欲を有する子供や若者に、あまねく必要な教育を提供して、本県が目指す人材像である、「ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い「志」と「行動力」をもって、地域や社会の課題を発見、他者と協働しながら解決し、新たな価値を創造できる若者」、これを育成してまいりたいと思います。

本日は、皆様からは、推進方針の最終案に対する御意見と、そして、本県の人づくりについてのお考えや思いなどを改めてお聞かせをいただければと考えておりますので、限られた時間ではありますが、忌憚のない御意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【村岡知事】

それでは早速議事に入りたいと思います。

本日はまず新たな時代の人づくり推進方針の最終案等につきまして事務局から説明をさせていただきます。その後に皆様方から、最終案に対する御意見、そして今後の人づくりについてのお考えなどを賜りたいと思います。

それではまず、事務局から資料について説明してください。

【池田審議監（事務局）】

それでは、新たな時代の人づくり推進方針の最終案について御説明させていただきます。

前回、第3回の会議で素案をお示しし、委員の皆様にご議論いただいたところです。その後、県議会で議論いただき、市町からの御意見、パブリックコメントでいただいた御意見等を踏まえ、最終案を取りまとめたところです。

素案から大きな変更はありませんで、修正箇所としましては、最新のデータへの更新および字句の修正が中心となっております。

改めて最終案の概要につきまして、資料1により御説明させていただきます。

まず、1の策定趣旨ですが、Society5.0の到来や新型コロナウイルスの感染拡大など、将来の予測が困難な中であっても、若者が課題に挑戦し、乗り越える力を備えることができるよう、様々な主体が連携・協働しながら、人づくりに取り組んでいくとしています。

2の対象期間につきましては、長期的な観点での取組が必要であることから、令和3年度から当分の間としております。

次に、3の新たな時代を担う人材像につきましては、ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い「志」と「行動力」をもって地域や社会の課題を自ら発見、他者と協働しながら解決し、新たな価値を創造できる人材としています。

そして4の人づくり推進の基本姿勢につきましては、一人ひとりの能力や可能性を伸ばすとともに、意欲ある全ての若者に新たな学びと成長のチャンスを提供する。そして3つ目の項目ですが、素案では、公立・私立学校としておりましたが、岡委員の御意見を踏まえ、国立を加えまして、国公立・私立学校とし、国公立・私立学校や関係施設等と一体的に取り組み、様々な主体が連携してチャレンジを応援するとしています。

5の人づくりの現状と課題につきましては、子ども・若者の減少、児童生徒の学力等、10項目について整理しています。こちらにつきましては、推進方針の本編になりますが、最新のデータに更新しております。

6の新たな時代に向けた人づくりの推進についてです。これ以降が人づくりを推進するに当たっての方針の部分でありまして、まず基本的な考え方を基本方針としてお示ししています。

1点目が、年齢や性別、障害の有無、経済状態等にかかわらず、学びへの意欲を有する子ども・若者にあまねく必要な教育を提供するとともに、国公立・私立や施設の種別等による区別なく、皆が一体となって、人づくりを推進することとしています。

そして2点目が、これから御説明いたします、6項目の取組の視点に基づきまして、人づくり全体を体系的かつ中長期的な視点から、俯瞰しながら諸施策を構築し、様々な主体との連携の下、効果的かつ計画的に実施していくこととしています。

2ページ目になりますが、取組の視点につきましては、6項目掲げております。

1つ目の「生涯にわたる人づくりの基礎を培う」では、幼児教育・保育の充実と学びの連続と一貫した人づくりに取り組むこととしています。

そして2つ目として、「ふるさと山口への誇りと愛着を高める」を掲げ、取組を推進することとしています。

3つ目には、「新たな価値を創造する力を育む」として、地域や社会が抱える課題を発見し、他者と協働して解決する力の育成や、自らキャリアを構築する力の育成、グローバルな視野の育成、AI等新しい技術を活用する力の育成に取り組むこととしています。AI等新しい技術を活用する力の育成につきましては、上から4つ目のデータサイエンティストや新ビジネスを創造するデジタル人材の育成につきまして、前回の会議での岡委員の意見等を踏まえ、本編では、大学をはじめ、市町や企業、団体等と連携して社会人を含めて即戦力となる人材を育成する旨を記載させていただいております。

続きまして3ページ目になりますが、4つ目の「誰にも等しくチャレンジの機会を創る」では、障害のある幼児児童生徒や家庭環境等に困難を有する幼児児童生徒等に対する視点を掲げています。

そして5つ目の「地域や時代のニーズに対応し、チャレンジのための環境を整える」では、児童生徒の可能性を伸ばし、志を叶える新たな学びの場の創造や教育のICT化の推進、社会の変化に対応した専門高校の充実等に取り組むこととしています。

最後に4ページ目になりますが、6つ目として、「新たな人づくりの推進体制を築く」では、幼稚園教諭・保育士等の資質能力の向上と確保育成を掲げています。このうち上から2つ目の幼児教育に関する調査研究や研修等を担うセンター的機能につきましては、前回お示した素案では、「構築について検討」としておりましたが、「検討」から次の段階へ進め、「センター的機能を構築」としております。また、教職員の資質能力の向上や、新たな学びを先導する体制整備、推進方針に基づく取組の推進と検証について掲げております。

資料2が最終案の本編となっておりますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

なお、推進方針につきましては、今後、総合教育会議での議論を経た後、2月県議会にお示しし、今年度末に策定したいと考えています。

また、推進方針を策定した後、この方針に沿って、いかに人づくりを進めていくかということが重要になってまいります。そこでこの度、冒頭、知事からもお話がありましたが、資料3にありますように、庁内横断的な組織として「新たな時代の人づくり推進室」を設置し、多岐にわたる取組を関係部局が連携・協働し、総合的に推進していくこととしています。

また、先程、幼児教育に関する調査研究や研修等を担うセンター的機能の構築について御説明しましたが、乳幼児期における教育・保育の質の向上を図るため、公私や施設類型の区別なく、幼児教育の内容、指導方法等に関する保育者への研修や調査研究等の施策を総合的に実施する拠点としまして、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」を設置することとしています。

最後に、資料4をご覧ください。推進方針に関連します令和3年度の主要事業につきまして、推進方針の取組の6つの視点ごとに取りまとめを行っています。グローバルリーダーやデータサイエンティストの育成、ICTを活用した先進的教育の推進などに取り組むこととしていますので、後ほどご覧いただければと思います。

説明は以上です。

【村岡知事】

それでは、これからは、皆様から推進方針の最終案および今後の人づくりについて御意見を賜りたいと思います。まずはおひとり5分を目安にお願いしまして、一巡した後改めて御意見を伺いたいと思います。

それでは最初に経済界、楠委員からお願いします。そして、楠委員さんの後に、吉村委員、岡委員、加登田委員、原田委員、浅原教育長、この順番でお願いをしたいと思います。それでは、まず、楠委員よろしくお願いします。

【楠委員】

それでは、私の感想と意見を言わせていただきます。今回最終案ということでまとめられました、今まで議論してきたことが網羅され、大変よくできたものだと思います。

企業の立場、そういう観点では、先程知事もおっしゃいましたように、グローバル、ローカル、グローカル、それからDX関係、そういうことを支える国際人材育成ということも入っています。

我々企業におりますと、もう、企業ひとりの力ではなくて、日本だけでも、山口県だけでもないということをひしひしと感じる次第です。

御承知のように、山口県は、製造業が多い県です。コンビナートも3拠点もございますし、かつそれに伴う協力会の皆様、あるいはものづくりをされている方など、いわゆる製造業に携わる方が多いわけです。そういう観点では、高等学校、高専、大学を含めて、本当に優秀な人材を育ててきてもらっているなというのを感じております。特に製造業では、高等学校を卒業した方が、いわゆる現場では大変戦力となっています。そういう意味で、各企業の皆さん、小中大の規模を問わず、良い人材が揃っているというふうに評価されているのではな

いかと思います。ただ問題は、やっぱり流出ということです。量的なこと、数が足りないということで、それをどうするかというのは別の意味の視点ですけども、教育という全体感からすると、これまでの努力を高く評価できるのではないかと考えております。

それで、先程から出ているように、新たな価値を創造する力を生む、ということが一番力点だと思っています。グローバルな視野の育成、それから、知的財産をどう守っていくか、生んでいくか、そういった観点から、この視点での取組も引き続き重要だと思っています。それから、人材が足りない、まだ整備が整ってこれからだとは思いますが、AI、DXは待ったなしで進めて行かないと、効率化ということが進んできません。新たな知恵を生むということがDXになるとしますので、その活用が大変大きなことだと思っています。

それから、最終案に当たりまして、もう一度考え直すというか、「新たな時代」というようなことを、最後の局面で思い返しますと、今、コロナ禍で大変、時代が変わった、生き方・働き方が変わったということを今経験しつつあります。

DXという革命、技術革命、技術革新という時代の変化、それから、もう一方のパラダイムシフト、私どもメーカーからいいますと、循環型社会、政府が打ち出しました2050年にカーボンニュートラルを実現するということがあります。

今2021年ですが、21世紀の半分を使った京都議定書、パリ協定からすると、2000年初頭からこれは始まっているところですから、グレタさんにあるように、非常に昨今、このことを抜きにして、企業活動はできない、あるいは地球の問題ですから、社会全体がこのことを切り捨ててできない。やはり、ここに対する教育という視点を、焦点を当てていかないといけないのかなと思います。今回のこの最終案と並行して、この視点を盛り込んだ形というのは非常に大事じゃないかと思います。産業界の立場でいいますと、200年前の産業革命は人々に非常に多くのベネフィットをもたらした、日本もそれに追いつき追いこせでやってきましたが、それがもう地球はそれを吸収しきれなくなって、地球が怒っているか泣いているか、地球がもたないという状況になっています。社会全体がこのベネフィットを享受してきた当事者であり、メーカーやそれに近いところだけが、悪い訳ではありません。社会全体でどう乗り越えていくかという視点が重要です。生活者全員が新たな生活様式という省エネ、一人ひとりが省エネをしていくとか、あるいはCO₂を出す企業なら、やっぱりそれをどう克服していくか、あるいは学术界、産業界を含めて、その技術革新をどのように早く進めるのか、それを支援していただく行政がどうかなど、それぞれの立場で、正しい位置づけを共有し、そこに向かってどう変化していくかということ、やはり教育の場を含めて、また、今までのベネフィットも含めて、これからの循環型社会を作っていくということが必要です。今、我々産業界、経済界では、これとコロナ対応ということですが、こういうことを克服していかなければお金も貸してもらえない、会社も潰れていく。新たな時代に向けたという意味では、循環型社会に対する正しい知識と、みんなで克服していくという役割分担を決めていくというも議論していかないと、新たな分断が生まれたりするのではないかと感じました。

その他ここに書かれていることは、本当にこれを推進して山口県自体が、推進の果実を得る、あるいは推進の体制の中でも秀でたものになっていけるように、企業としても参加しながら、祈っていきたくて思っており、この案を評価したいと思っています。どうもありがとうございます。

ざいます。

【村岡知事】

ありがとうございました。色々と御意見をいただき方針に盛り込んだ「新たな価値を創造する人材」というところは、しっかりやっていかなければなりませんし、お話があったように、また新しい時代というのは、今、循環型社会ということも大きく進めていくとい方向が出ている中、その中で求められる人材というの、また考えていかなければいけないと思います。

人づくりを進めていく中で、そうしたことを踏まえながら、随時、その時その時で求められる人材というの意識して進めていきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、吉村委員お願いします。

【吉村委員】

最終案につきましては、非常に素晴らしい方向性を示されており、本当によくまとめられた案だと思っています。その中で若干感想めいたものを3つほど、申し上げさせていただきたいと思います。

ひとつは、最初に出てくる言葉ですけれども、「志」の問題です。「志」を持って社会課題を解決していく、挑戦していくというのは本当に素晴らしいことだろうと思っています。往々にして、普通、安定志向だとか、現状維持というものに流されていくことが常なのだろうと思いますが、これを山口県から、挑戦していく人材を増やしていくというのは極めて大切なことだと思っています。

先日東京で、私どもの方から投資をしようというベンチャー企業を訪問したときに、県内の公立高校を卒業された学生、大学生ですが、その会社の起業に参画されているという、そういった場面に遭遇しましたが、私としては、驚くとともに時代の変化を感じ、学生の動きに対して非常に嬉しく思ったところです。もしかすると、人づくりをする方が、この時代の変化の中で、若者たちの変化についていけない部分もあるかもしれない。我々の方がマインドリセットする必要があるのかなと、ちょっと感じたところです。その学生に限らず、色々なことに挑戦するということについては、挑戦を促すとともに、やはりその挑戦に対するセーフティネットをこの社会でどうやって作っていくかという議論も、一方では必要になってくるのではないかと考えています。

こういった会議も含めて、今の若い人たちにベンチャーを起こされた企業の社長さん、そういった皆さんが、どういった修羅場をくぐってこられたのかというような、生々しいリアルな現実も聞いていただくようなことができれば、彼らにとっても新鮮なものになるのではないかと考えた次第です。ベンチャーが全てではないですが、そういったところで、挑戦するという「志」を、いろんな角度から後押ししていくというのが重要だと思っています。

それから2つ目は、行政の皆様、それから学校・教育界の皆様、それから地域、我々企業、他の諸団体の皆様の連携体制です。

VUCAの時代においては、人づくりを展開していこうとすると、あらゆる活動体の連携が必要になってくると思います。最終案にも何度も書かれてあることですが、例えば我々企

業、今、楠委員もおっしゃいましたが、我々企業は教育現場に対して、今後、こういう経済環境になるよとか、産業構造がこう進みそうだとか、だからこそこういう人材が必要だということを情報発信していくべきではないかと思っています。

またその教育についても、我々のノウハウや知的財産、こんなものを使えるのではないかなどといったコミュニケーションをとっていかなければいけないと思っています。

一方、教育現場の皆さんも今後の社会構造や産業構造について、是非、先見の明を発揮していただいて、こうなるのではないか、企業はこう動くべきではないか、人材をこう活かすべきではないかといった情報を、是非、発信していただく、そして、この大局的なところを行政の皆さんがつかんでいただいて、地域構造を良くしていくということをやっていかなければいけないと思います。教育におけるオープンイノベーションの力を高めていかなければいけないのではないかと思います。

その観点からすると、連携ということは、私は、もっと混然一体として、融合という言葉が必要ではないかと、そういった感覚が必要ではないかと思っています。そのためには、この人材育成に関して、この新しく「人づくり推進室」というのが、県の方でお作りになられるということで本当に素晴らしいことだと思うのですが、是非、推進室が意見を取り上げる場として、色々な産官学諸団体のレイヤーにおきまして、人材教育に関するハブとなる人材をお作りいただき、集めていただく、そういう形で教育のネットワークを形成していただき、情報交換それからコミュニケーションを取りながら、常に新しいオープンイノベーションを意識したニューノーマルな教育立案体制を、是非、作っていただきたいと思っています。

最後に、デジタル人材です。知事からも先程お話があり、楠委員からもお話がありました。これからのデジタル社会については、いわゆるG A F Aが今まで勝ってきた情報のデジタル化や情報を使ったネットワーク化ではなく、いよいよ2回戦で、日本が得意とするものづくりとデジタルの融合、そういった時代に入ってくるのだらうと思います。このリアルとデジタルを融合する世界は、まさに日本、あるいは先程楠委員がおっしゃったような山口県、ものづくりが得意なところが、ものづくりとインターネット、ものとインターネットを繋げていく時代になりますので、最終的にはものづくりの世界が勝っていくということになるかと思っています。まさにデジタル社会では、今、日本は遅れていると言われていますが、それを一挙に大逆転するチャンスではないかと思っています。

そのためには、スピードを持って、熱意を持ってデジタル人材を育てていく、この山口県の推進方針に則って、是非、タイミングよく、デジタルに関する人材育成をしていく、そういった正に絶好のチャンスだと思っていますので、この案に対して、非常に期待を持っております。

私の方からは、以上3つの感想を申し上げさせていただきました。ありがとうございました。

【村岡知事】

ありがとうございました。挑戦する「志」を持った人材育成や、連携を更に進んで「融合」というお話もありました。本当に成果を上げるために具体的な御提案をいただき、ありがとうございました。また、デジタル人材の重要性についても改めて話をいただきました。3点、

しっかりと踏まえながら、具体的な取組を展開していきたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。ありがとうございました。

続きまして岡委員よろしく申し上げます。

【岡委員】

この度は、新たな時代の人づくり推進方針の最終案につきまして、それに対して意見を述べさせていただくということでありありがとうございます。また、本方針を策定するにあたり、関係者の1人として経験することができました。それも大変光栄に存じております。

私どもの大学の立場で今まで意見を述べてまいりましたが、山口県が直面する高齢化が急速に進んでおり、高校生の大学進学率が低いこと、県内の高校生の県内大学への進学が低いということ、それから県外への流出が非常に高いという、こういうことが人口減少に大きな影響を与えているということは言うまでもないと思っています。

ふるさと山口を愛して誇りを持つ子どもたちが、未来の時代を担ってくれることを期待して、本推進方針が策定されたと私は認識しております。地方大学につきましては、まち・ひと・しごと創生基本方針2020で閣議決定がされておりまして、地方大学は地域課題やニーズに適切に迅速に対応できる魅力的な地方大学の実現と、地域内での魅力的な雇用創出、拡大に向けて、STEAM教育やデータサイエンス教育に取り組み、魅力あるきらりと光る地方大学づくりを目指すことが示されています。何回も魅力あるということが出ていますが、そういうふうに取り組まなければいけないという、これが私達の今目指す方向性です。

また、新型コロナウイルス感染により、ウイズコロナ、アフターコロナ時代において、社会のデジタル化が急速に進みつつあり、デジタル化に貢献する人材育成も最重要課題とされています。知事も全国知事会の本部長になられ、それを真剣に取り組んでおられると思います。これについては最後に少し説明させていただきます。

本推進方針案に新たな人材像として述べられております、地域社会の課題発見、他者との協働、新たな価値の創造、こういうものが大学で行いますSTEAM教育、また、DX人材育成と一致しています。すなわち、小学校・中学校・高等学校、大学というものが切れ目ない教育であるということが重要ではないか、それによって新たな時代の人づくりができるのではないかと思いますし、少なくとも、高大連携の確立が鍵になるのではないかと考えています。この高大連携は、ひとつの大学だけではなくて、県内の大学と高等教育機関が協働して取り組む必要があると思います。

情報に関する教育は極めて重要で、DXを用いたイノベーションを通して人を幸せにするとか、地球を幸せにする人材育成が本方針で示されたと考えますが、一方では、情報倫理などを幼い時からしっかり教育することが極めて重要でありますので、この点の御配慮をお願いします。

今回の推進方針に対して一点申し上げるとしましたら、2ページの3の、新たな時代を担う人材像の項目で、ふるさと山口の自然や人、歴史、伝統文化への理解を深め、とありますが、是非とも、地域産業、山口県の産業を加えるべきではないかと思っております。といいますのも、若者定着事業であるCOC+をやってまいりまして、その中でアンケート調査をやってみましたが、山口県出身の学生とはいえ、山口県内の企業をほとんど知らないという事実も

あります。そういうところから、県においては、山口県の企業を紹介する冊子を作成されていると聞いています。そういうことをしっかり、幼い時から知っていただく取組を行うことで、地元に対する魅力が植えつけられるのではないかと思います。

山口県の未来を担う人材育成のために、教育界のみならず、自治体と産業界が一体となって、協力することが極めて重要であり、この面においても、地域のプラットフォーム力が充実するということが重要であると思っています。推進方針を基に人材育成をする中で、是非とも問題点等を評価され、PDCAサイクルを回しながら、より良い教育を目指していただければと思いますし、大学としては、これを全面的に一緒にやっていきたいと思っています。

最後に、デジタル人材の話がありましたが、デジタル人材というのは価値を提供できる人材であり、もうひとつ、STEAM人材という言葉が出ております。これは、イノベーションを人間本位に実行できる人材ということで、非常に似通った言葉ですが、多少、違いがあります。大学では、もうすでにふるさと人材、デジタル人材の育成をスタートしているところですが、それ以外に、技術人材、デジタル化の技術人材とか、I Rを組みまして、それからDX関連の研究者の育成にもしっかり取り組まなければいけないと思っています。こういうことも産学公の連携というのが極めて重要ですので、これからもよろしくお願ひしたいと思います。以上です、ありがとうございました。

【村岡知事】

ありがとうございました。大学の方でSTEAM教育やDX人材の育成などに、大変に力を入れて取り組んでおられることに敬意を表し期待をしています。そしてCOC+については、我々も一緒に取組をさせていただき、岡学長のリーダーシップの下で、色々な取組が前に進んできたところでありますが、おっしゃるとおり、産業という面で、山口県にどんな産業があり、企業があり、どれだけの力を持っているのかというところが、中々、学生には伝わりにくいところですので、しっかり意識をして伝えるということ、こちらの方から力を入れてやっていかなければいけないと思います。その点は、我々も山口県の工業について、小学生などに向けましても、実際、県内にどんな企業があって、世界に向けてどんなものを本県から展開しているのかということ冊子化して、機会を捉えて紹介していますが、しっかりと教育の中でも引き続きやっていかなければいけないと思いますので、今回の方針の中にも盛り込んでやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

続きまして、加登田委員よろしくお願ひします。

【加登田委員】

この度の新しい推進方針は、知事の御意向だと思いますが、本当に前向きでポジティブなメッセージが反映していると全体的に感じました。まず、「新たな時代」ですが、前置きにも書いてあるように、予測困難な時代、第1回目の時に、私、申し上げたかもしれませんが、社会がこれから先は予測困難だと認識しているのは、周知のとおりだと思うのですが、予測困難な場合に、例えば、曲がり角の次に何があるか怖いと感じるか、または、曲がり角の次には何があるのかとワクワクと感じるかは、やはりこれから将来を担っていく子どもたち

にとって、社会観を形成するときの基本になるかと思います。そういう意味で、今回の推進方針は、曲がり角を曲った後に、何があるかわからないというワクワク感をかなり書き込んだような印象を持ちます。

まず、人材像として山口に誇りと愛着を有し、高い「志」と「行動力」を持ってということで、その中身としては地域社会の課題解決能力と、2番目は他者との協働、すなわちチームワークやコミュニケーション力と、3番目が、決められた正解を探すのではなくて、正解を創るのだという3つのポイントが挙げられています。これは月並みに読めば、どの県も取り上げるような課題なのですが、山口の人がこれを語りますと、明治維新というのが、過去の歴史的な栄光ではなくて、それまでの封建社会を支配していた価値から脱却して、新しい我が国の近代化という価値を創造した、それを推進したのが我々山口の先達なのだ、少し大袈裟に言うと、資質として、風土として、改革のDNAを持っているのだ、それを大切にするのだという、強力なメッセージというふうに解せられるのではないかと思います。それを、山口の人々は意識をするのだと思います。

次に、人づくりの推進の基本姿勢ですが、ここにもポジティブなメッセージが込められていると思います。可能性を伸ばすとか、成長のチャンスを提供するとか、それから失敗を恐れない、そのために連携やチームワークをとるのだという基本姿勢、であるかのように思えます。

山口の人々は、生真面目で、真面目で着実だというのがありますが、本来、改革的なDNAというのは奔放さがありますし、それからチャンスを逃がさないというような適時性というものもあるかと思います。そういった県民の財産とか資質に脚光を当てるような表現をせっかく書いているのですから、それを、これから色々と拡げていけばよろしいかと思いません。この変革の時代とか、予測困難な時代を、私が言うにはちょっと口幅ったいのですが、高杉晋作が「おもしろきこともなき世を面白く」と言ったように、そういった改革の感覚を山口県人がきちんと受け継いでいるのだというメッセージになるかと思います。

特に新たな価値を創造する力を育むというところで私が注目したいのは、他の委員もおっしゃいましたが、グローバルな視点の育成です。今回知事が、高校生までもパソコンの普及を思い切ってなされたことにも表れているように、今回のコロナの体験により、ポストコロナのあり方、すなわちICTなんかを使う国際交流、グローバル化の手法の発想がかなり変わってくるということもありました。それは東京、大阪などの大都会のように、本当に外国人の方が既にあふれているというような環境ではない山口でも、こういったグローバルな視点というのがもっと身近に、ICTを使ってできるという可能性を示したものであります。そういったツールを使ったら、グローバルな視野の育成というのが可能になったということです。それから、それらを背景として、推進方針には、世界と自分が結びついていると実感できる体験活動を推進ということが書き込まれていますが、そういった地方にあっても、グローバル化の波をひしひしと感じ、多文化共生する、多文化共生力のある地域になっていくということを提示していると思います。山口では本当に、先程申し上げましたように、東京や大阪のように、コンビニに行けば外国人の方が働いているというのを体感するような状況ではありませんが、おそらくこれから10年、20年の間には、内なる国際化が、多文化化が進んでいく社会だと思しますので、そういったことを推進する人材を育成すること

の意義というのは大変大きいかと思えます。

2番目は、AI等の新しい技術、いわゆるDX人材の育成ですが、先程、各委員がおっしゃったような技術人材の重要性というのは一般的にあるのですけれども、DX人材に求められるマインドセットというのがあり、これは、やはり現状を変えたいという欲求を持つ挑戦のセンス、それから、問題発見力、それから、それらを解決していくための巻き込み力、いわゆるコミュニケーション力とか連携力と言われているものであり、やはりそういった挑戦とか、問題発見とか解決とか連携の重要性が、最初の人材像から含めて、この推進方針では繰り返し説明されているように思います。

最後に御膝元の県立大学の取組として、現状の報告とこれからの決意を述べさせていただきます。本学では知の拠点としての機能を果たすべく、地域共生センターを中心に、産学連携によって受託研究、共同研究等の創生研究、それから大学の教育機能を地域に還元する各種の公開講座や地域向けの地域共生教育等に取り組んでまいりました。更に、先程のグローバルについては、規模は小さいですが、アメリカ、カナダ、中国、韓国、フィンランド、ロシア、その他海外の大学との学術交流協定を基軸とした学生交流や研究者交流、交流を通じまして、規模の割には珍しく、多角的なグローバル人材養成等にも取り組んでまいりました。現在、これらの従来培われてきた地域や世界との信頼関係や実績を基盤として、新たなワクワク感を求め、新時代に向けて時代の変化に対応しつつ、上質な地域人材を輩出するために、各学部において、第4次の中期計画から実現すべく教育改革の検討を進めているところです。

本会議で議論してきた人づくり推進方針の趣旨を若干先取りしまして、2022年から、全学教育におけるデータサイエンス教育の強化や文理融合のPBLのアクティブラーニング、未来創生プロジェクト等の横断的な教育プログラムを必修として、全学で取り組む予定にしています。

更に、今後は、本推進方針に盛り込まれているように、県内大学等の機能分担や連携を鑑みつつ、少子高齢社会を前向きに捉える、上質な地域のエッセンシャルワーカー、看護、栄養、社会福祉だけではなくて、地域の観光や産業振興連携等にも関わるようなエッセンシャルワーカーの輩出や、地域産業界との強い連携に基づく、インターンシップやリカレント教育という、地域産業界との密接な連携を深めながら、県内の多文化共生を推進するような人材育成など、県立大学としての役割を果たしていけるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

【村岡知事】

ありがとうございました。新たな価値を創造する人材、グローバルな人材、あるいはDX人材等について、人材育成を進めていく上での必要な視点をお話いただきました。また、山口県の脈々と繋がっているDNA、これをうまくこれからの時代に向けて、引き継いで、伸ばしていくということが重要だと思いました。

また、県立大学の方でも地域共生やグローバル人材の育成等に取り組んでおられますし、今、加登田委員がおっしゃったように、地域の産業ともしっかりと連携をしながら、地域に必要な人材をつくっていくという意気込みをお話いただきまして、大変心強く感じました。

これからも、益々、地域に有用な人材を教育していただきますよう、よろしく申し上げます。
ありがとうございました。

続きまして、原田委員、よろしく申し上げます。

【原田委員】

まず、この最終案で新たな時代の人づくりを推進していくことに賛同します。時間を頂きましたので、この新たな時代の人づくり会議に参加させて頂いた約1年半を振り返って、少しお話をさせていただきたいと思います。

この度のこの推進方針は、私達、ひとづくり財団にとって、これから進むべき方向を示すものになると思っていましたので、この会議やトークセッションでの御意見、アドバイスなどを自分たちの人材育成事業の中でできるだけ取り入れようと、関係の皆さんに御協力を頂きながら、事業の見直しを行ってまいりました。

具体的には、やまぐちキッズスクールなどの新しい事業を加えて、幼児から大学生まで切れ目のない若者育成となるよう取組の幅を拡げ、内容についても、例えば、子供向けの体験イベントでは、大学や企業の御協力を頂いて、プログラミングに挑戦することや、新しいデジタル技術に触れる、そういったことに幼いころから関心を高める機会、そういったものを多く取り入れることとしました。それから、小中学生を対象にしたキャンプでは、青少年自然の家と連携して行うこととし、十種ヶ峰の自然の中で、主体的で協働的な活動を中心に実施することとしています。それから高校生を対象とした事業については、昨年度までの県取組をベースに、実績のあるNPO法人や山口大学地域未来創生センターの皆さんに企画の段階から本番の運営まで、全面的に御協力をいただき、高校生ふるさと探究と若者Myプロジェクトの2つの事業を試行的に実施するというところまでこぎつけることができました。これらの事業は、若手の起業家をはじめ、山口県で活躍されている社会人の皆さんに参加していただき、高校生と語り合ったり、課題の発見、解決に取り組む高校生に伴走していただいたりしました。また、参加した高校生たちからは、「志」をたてて挑戦を続ける大人たちの生き方に触れて、自分も目標に向かって行動していきたいとか、もう一度頑張ってみようというような、自分事として捉えた感想がありました。今回、コロナ禍での実施となり、オンラインでの交流に留まりましたが、次回は、高校生と大人、そしてその企画・運営に関わる大学生が膝を交えて語り合う、そういった場面も織り交ぜたいと思っており、高校生、大学生、大人など関係者間にもっと大きな憧れの連鎖が生まれる機会にしていきたいと思っています。

こうした一連の見直し作業を振り返って、今、改めて、今日も会議の中でも色々とお聞かせいただきましたけれども、この先、どういう資質能力が求められるか、それを育むためにはどんな方法が有効なのか、そういった見直しのポイントと方向性について、新しい知見や実社会の視点から具体的な提案を頂けたということ、そしてその提案を実現するために必要な経験やノウハウ、また、設備機器の提供といったハード・ソフト両面からの支援を頂けたということ、そうしたサポートがあったことがとても大きかったと感じています。

来年からこの方針に基づく人づくりが本格的に始まるわけですが、人づくり推進の基本姿勢に書いてありますように、山口県の全ての子ども・若者に新たな学びと成長のチャンス

を与える、そして一人ひとりの能力や可能性を伸ばす、そういう人づくりにしていくためには、学校をはじめ、この方針に沿って新しい取組にチャレンジする全ての人に対して、私たちがいただいたようなシンクタンク、あるいはそのプラットフォームとしてのサポートを継続して提供する、そういった体制が必要ではないかと思えます。私達、ひとづくり財団としても、今回見直した人材育成事業を、これから更に進化をさせ、その中で蓄積されるノウハウと人的ネットワークを積極的に活用して、そうしたサポート体制の一翼を担っていただければと思っています。どうもありがとうございました。

【村岡知事】

ありがとうございました。原田委員のところで、人づくり財団におきまして、将来を見据えて新しい時代の人づくりを進めて行かれる中で、様々なプログラムを見直し、どんどん充実をされておられることに、大変敬意を表したいと思えますし、期待をしています。

幼児期から、先程の話では高校生、社会人と、実際に合わせて、課題の発見と解決ですとか、そうしたことをしていく中で、憧れの連鎖という話がありましたが、そうした少し上の人に憧れて、自分がそうなるとうところを繋いでいくということが重要であると思えます。先程、吉村委員からもベンチャーの方から話を聞くというお話がありましたが、同じような狙いだと思います。やはり、自分の理想となるような人に直接会って話を聞いたりするということは大変な刺激になると思えますので、そうしたことを、是非、進めていただきたいと思えます。そのためには、関係機関との連携が大変重要になりますから、そうしたネットワークもどんどん作られていってほしいと思いますが、是非、それも、我々もしっかりと連携しながら協力して続けていければと思いますのでよろしく願います。ありがとうございました。

それでは、浅原教育長よろしく願います。

【浅原委員】

よろしく願います。まず先程、各委員がおっしゃいましたが、本日、事務局から示されました推進方針の最終案につきましては、第3回の会議の議論やパブリックコメント、こういった意見が反映されておりまして、より良いものになったと考えております。

最終案を踏まえた県教委の取組の中で、3点、教育のICT化、それから産業教育装置の整備、幼児教育・保育の質の向上、これについてお話をさせていただきたいと思えます。若干、県教委の取組のPRのようになるかもしれませんが、お許しただけならと思えます。

初めに、教育のICT化についてです。最終案の14ページのあたりに、教育のICT化を推進と記述がございますが、県教委では本年度中に整備をいたしますICT環境を活用して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子供たちの可能性を広げていくために、広がる教室、深まる学び、「やまぐちスマートスクール構想」の推進、こういう形で打ち出して、取組を進めていきたいと考えています。この構想を進めていくに当たって、次の3つの視点で学校づくりを考えているところです。

まず1つ目の視点として「一人ひとりにあった学びで力を引き出す学校」、これを掲げ、これまで従来行ってきた教育実践と、そして1人1台タブレット端末を活用して、個別最適

な学び、あるいはきめ細かな指導を実施していきたいと考えています。それから、統合型校務支援システム、これを前倒しして導入し、教育ビッグデータの蓄積とか、あるいは次代を担う高度IT人材の育成を目的としたデータサイエンティスト育成講座、こういったものを開講して、即戦力となるデジタル人材を育成していきたいと考えています。

それから、最終案の15ページの中ほどに、時間と空間を超える遠隔教育の記述がございますが、2つ目の視点として「海外、地域、他校と繋がる学校」、これを掲げ、遠隔授業等を支援する民間のコーディネーターを派遣して、3年間で全ての県立高校で海外との交流を実施する、そういったことで、グローバルな視野を育成していくこととしております。更に、Web会議システムで複数校を繋いで、学校や学年にとらわれない、全県立学校の生徒を対象としたハイレベルな課外授業を実施するなど、ICT環境を活用した多様な学びの機会を創出していきたいと考えています。

それから、13ページにございますが、誰にも等しくチャレンジする機会を創る、こういうことが書いてありますが、3つ目の視点として「安心・安全で一人ひとりを大切に作る学校」、これを掲げており、例えば分身ロボット等も活用して、障害や入院等で通学できない児童生徒にオンライン授業を実施すると、こういうことも考えています。

これまで培ってきた教育実践、それから先端技術のベストミックスにより、様々な場面において、子どもたちがICTを活用し、より効果的な学習を行うことができる教育の実現に、引き続き取り組んでまいりたいと考えています。

次に、産業教育装置の整備についてです。15ページに、社会の変化に対応した専門高校の充実ということが掲げられており、その中で次のような記載があります。AIやIoT等の技術の進展など、時代の変化に対応した知識や技術を習得することができるよう、実習施設・設備等の整備を推進、こういうふうに記載されています。ご案内のように、産業教育施設というのは大変高価であり、最新・最先端のデジタル化に対応した十分な整備を行う、これが本県の課題でございましたけれども、国の第三次の補正予算を活用して、職業系専門高校において、金属3Dプリンターであるとか、レーダーシミュレーター、そういったものを整備することといたしました。DXに対応して、地域の産業界を牽引する産業人材の育成に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

最後に、幼児教育・保育の質の向上についてです。最終案の17ページに幼児教育に関する調査研究、あるいは効果的な政策の企画立案、幼稚園教諭・保育士等に対する一元的かつ先進的な研修等を行うセンター的機能の構築と記載されています。先程事務局の説明にもありましたが、幼児教育・保育の質の向上を図るために、幼稚園、保育所等に対する研修、指導・助言などの施策を総合的に実施する拠点ということで、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」、これを設置いたします。具体的にどういうことをするかというと、専門性の向上を図る研修であるとか、あるいは幼児教育アドバイザーの巡回訪問による指導助言、幼児教育施設や保護者に対しての情報提供、これを一元的に行いたいと考えております。県教育委員会といたしましても、乳幼児期における教育および保育は、生涯にわたる人格形成の基本を培う大変重要なものであると認識をしています。幼児教育・保育に関しては幼稚園、保育所、認定こども園等、様々な施設があり、所管も異なっております。その中で、知事部局や各市町教委と連携を図りながら取組を進めてまいりましたが、今後は、新しく設置をす

るこのセンターにおきまして、幼児教育・保育の質の向上、これを総合的に推進していきたいと考えています。

県教委としてもこの推進方針を踏まえ、新たな時代の人づくりに向けた施策等に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

【村岡知事】

ありがとうございました。県教育委員会ということで、私の方からも色々をお願いをして、教育のICT化や、それを使った授業の質の向上ということを色々をお願いをして、先程発表しました予算の中で、今教育長がおっしゃったことも具体化されています。学校のICT端末、1人1台パソコンというのが、国は小中学校を国の補助で整備するが、高校は何もないということでした。しかしそれは、高校においてもきちんとICT教育を進めるべきだと私は考えまして、県内全ての高校で、ひとり1台のPCを、今年度、実現をすることにしました。

これを是非使って、しっかりと質の高い教育を、フルにICT機器を使ってやっていきたいと思います。そうした中で、一人ひとりの熟度に応じた教育や、あるいは、先程、教育長が紹介したように、各学校と海外とを繋いで、それぞれの学校がどこかの海外の学校と繋がって、国際的な感覚を養っていく環境を整える、これも全ての学校で展開、複数年かけて実現できるようにしていきたいと思います。また、県内全ての学校を対象に、ハイレベルな教育を課外授業で配信をして行うとか、あるいは資格をとる生徒に向けて、それに応じた講座を、これも全県一斉に展開するなど、このICT機器、1人1台を使って色々なことができるようになりますので、これを是非フルに使ってやっていきたいと思います。また、必要なデータサイエンス教育、これからの人材を育成するための教育、また、大学ともSINETで繋いで、充実した連携環境を構築し、高校生にも大学の非常に高いレベルのものが伝えられるようなこと、そういった環境も是非これから作っていききたいと思っています。これも関係者の皆様に色々教育の中身につきましても御支援いただきながら進めていきたいと考えていますので、是非、私の方から御協力をお願いしたいというふうに思っております。ありがとうございました。

それでは、ひと通り皆様方から御意見をいただいたところですが、まだ少し時間がありますので、言い残されたことや、あるいは他の委員の方の御発言を聞かれて、気づきなどがありましたら、自由に御発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、それぞれの分野の皆様方から、大変貴重な御意見、これから人づくりを進めていく上での大変重要な視点についてのお考えをお聞かせいただき、本当にありがとうございました。

推進方針の案そのものにつきましては、基本的には今の本案のとおりとさせていただきますと思いますが、それにつきましてはよろしいでしょうか。

<全委員、賛同>

ありがとうございました。それでは基本的には今の案のとおりとさせていただきます。

委員の皆様からいただきました視点については、重要なものがたくさんありました。御意見を十分に踏まえて、活かして、今後の具体的な事業の推進そして施策の展開を図っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、最後に私から一言ご挨拶を申し上げます。

改めまして、本日は大変お忙しい中、こうしてお集まりいただき、新たな時代の人づくりの推進方針の策定を踏まえた、今後の本県の人づくりに向けまして、皆様から大変貴重な御意見、様々な御提言を賜りまして、心からお礼を申し上げます。

本日も含めまして、これまでにいただきました貴重な御意見を踏まえ、学校、そして企業、団体、皆で連携をした上で、新しい時代を担う若者たちの育成に向けてしっかりと取り組んでいきたいと思っております。今日、委員の皆様方もおっしゃったとおり、これは、関係機関がしっかりと連携をして進めていくことが大変重要でございます。

山口県において、これから未来を担うしっかりとした人材が育つことは、本当に皆さん共通の願いでありますし、我々が連携することで、そうしたことが、次に向けて大きく進んでいくと確信しております。是非、引き続き、今後の取組につきましても御協力を賜りますように、重ねてお願いを申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

以 上

※ 上記については、委員の了解を取っておらず事務局がまとめたものです。